

法人運営管理

I 会議開催の状況

会議内容	開催日、場所	審議内容
第75回理事会	令和2年5月25日 (書面開催)	第1号議案 令和元年度事業報告及び収支 決算承認の件 第2号議案 役員の新補充選任の件 第3号議案 第33回通常総会付議事項の件 報告事項 令和元年度事業報告の件 令和2年度事業計画及び収支 予算の件 令和2年度会費の件 基本財産運用方法の件
第33回総会	令和2年6月15日 (書面開催)	第1号議案 令和元年度収支決算承認の件 第2号議案 役員の新補充選任の件 報告事項 令和元年度事業報告の件 令和2年度事業計画及び収支 予算の件 令和2年度会費の件 基本財産運用方法の件
臨時理事会	令和2年8月7日(水) 松江エクセルホテル東急	協議事項 裁判について
第77回理事会	令和3年3月22日 松江エクセルホテル東急	第1号議案 令和3年度事業計画(案)及び収 支予算(案)承認の件 報告事項 業務執行状況報告

II 公益社団法人島根県水産振興協会地域水産振興部会総会等への出席

なし

III 関係会議の開催

なし

IV 外部会議等への出席・参加

なし

V 登記に関する事項

年月日	登記事項	登記先
令和2年8月5日	監事(2名)の変更登記 稲岡大二辞任 梅津明則就任	松江地方法務局

VI 事業及び経理上の重要事項

項目	年月日	調査内容	備考（講評）
島根県の 包括外部監査	令和2年 11月13日	テーマ「外郭団体の事業等の適正化」について ①組織と職員配置（人数・県OBの雇用等） ②財務内容（財務数値・補助金・基本財産の運用等） ③事業の実施状況（自主事業・受託事業、個人情報保護、情報公開等）	・外部委託業務について県の書面承諾を得ること
島根県の 定期立入検査	令和3年 2月10日	①事業関係（公益事業内容） ②財務基準関係（公益目的事業比率、収支相償、財産目録等） ③ガバナンス関係（総会、理事会、監査状況、役員変更届、法定書類の備置き等） ④会計関係（会計帳簿、債券保有状況、財産目録、貸借対照表、正味財産増減計算書等） ⑤事業報告関係（定期提出書類の状況等）	・事業計画書提出期限の順守 ・余剰金の計画的な解消及び未納会費の早期解消

I 部門別の事業活動概要

公益目的事業

【松江本部】

1 沿岸漁場整備開発促進事業

(1) 受託事業

①水産環境整備事業漁場利用状況調査業務（県漁港漁場整備課）

県内各所の一本釣漁業者に人工魚礁を記載した調査野帳を配付し、人工魚礁の利用回数、漁獲される魚種、漁獲量等を野帳に記録してもらい、その野帳を協会で回収し記録を取りまとめる人工魚礁の利用状況の調査を行った。

②種苗放流による資源造成支援事業

（(公社)全国豊かな海づくり推進協会を事務局とした日本海中西部海域栽培漁業推進協議会で実施）

日本海中西部海域（石川、福井、京都、兵庫、鳥取、島根、山口県を対象）の関係県で連携して、ヒラメの自然界での生態を把握し、放流種苗の生残率の向上と、効率的な資源維持増大を図る目的で、放流魚の一部で標識放流を行った。

(2) 助成事業

①海難遺児に対する育英資金の給付

令和2年度は給付実績なし

【育英資金給付額】

対 象	月 額	対 象	月 額
幼児・小学生	4,000 円	高校生	7,000 円
中学生	5,000 円	大学生	11,000 円

②その他の助成

水産振興助成事業実施規程に基づき助成対象事業の公募を行い、選考委員会において審査した結果、下記の団体を対象として助成を行った。

助 成 団 体	事 業 名	助 成 金 額
漁業協同組合 JF しまね美保関支所	漁場環境保全事業	40,000 円

2 中間育成・放流事業

(1) 中間育成・放流

平成27年に策定された島根県第7次栽培漁業基本計画に基づき、県下6地域の水産振興部会と連携しながら、マダイ、ヒラメ稚魚の中間育成及び放流を実施し、積極的に資源の回復、漁業生産の増大を図った。

事業費は、全国豊かな海づくり推進協会補助金、県単強い水産業づくり交付金、地元負担金、栽培漁業推進ファンドの運用益により放流事業を実施しており、補助金や運用益の減少などにより厳しい財政状況ではあるが、中間育成施設の集約化など事業の効率化を図りながら実施した。

①ヒラメ中間育成・放流

令和2年4月に35mmのヒラメ37万尾を浜田市と松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、5月～6月に県内19か所（出雲東部6か所、出雲西部3か所、石見東部5か所、石見西部5か所）において放流した。

【ヒラメの中間育成・放流結果】

中間育成		放 流			歩留り
搬入時期	数量・サイズ	放流時期	数量・サイズ	場所	
令和2年4月	370千尾、35mm	令和2年5月～6月	355千尾、 85～138mm	出雲・石見 地区	95%

②マダイ中間育成・放流

令和2年7月に35mmのマダイ65万尾を、西ノ島町と松江市の中間育成施設へ搬入・育成し、8月～9月に県内14か所（隠岐島前8か所、隠岐島後1か所、出雲東部5か所）において放流した。

【マダイの中間育成・放流結果】

中間育成		放 流			歩留り
搬入時期	数量・サイズ	放流時期	数量・サイズ	場所	
令和2年7月	650千尾、35mm	令和2年8月～9月	637千尾、 80～90mm	出雲・隠岐 地区	98%

(2) 放流効果調査

マダイ、ヒラメの放流効果を調査するため、西ノ島町・浜田市・大田市の各市場において、マダイ・ヒラメの放流効果調査を実施した。調査内容は市場に水揚げされたヒラメ、マダイの全長測定とヒラメは無眼側黒化魚の識別、マダイは鼻孔連結の有無の確認を行い天然魚と放流魚を区別し、黒化率などを補正して混獲率を算出した。

【市場調査結果】

魚種	調査場所	調査内容				混獲率 (%)	混獲率補正 (%)
		漁法	調査回数 (回)	調査尾数 (尾)	標識魚 (尾)		
ヒラメ	大田市・和江	小型底曳網	5	392	15	3.8	8.2
	浜田市・原井	沖合底曳網	12	822	32	3.4	8.2
マダイ	西ノ島町・浦郷	定置網・刺網・一本釣	5	23	2	8.7	35.2

(3) 栽培漁業のPR活動

例年、漁業関係者が、地先海域の資源を管理しながら増やしていくために積極的な活動を行っていることや、栽培漁業の重要性を一般の方々に広く知ってもらえるよう、県内各地で小学生や幼稚・保育園児等を対象に稚魚の体験放流事業を実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため多くの地区で開催を中止し、西ノ島町でマダイを対象とした体験放流が1回実施された。

【ヒラメ・マダイ体験放流の状況 (開催回数1回)】

魚種	部会名	開催日	放流場所	参加者
マダイ	隠岐島前	9月1日	西ノ島町 美田湾	西ノ島小学校 15名

3 種苗供給事業

会員の要望に基づき、栽培漁業の推進及び養殖漁業に必要な放流用・養殖用種苗の斡旋・配布を実施した。

【種苗供給事業実績】

種苗名	規格	供給数
キジハタ	平均全長 80 mm	25,000 尾
カサゴ	平均全長 100 mm	7,000 尾
アカアマダイ	平均全長 35 mm	3,000 尾
クロアワビ	平均殻長 30 mm	140,800 個
メガイアワビ	平均殻長 30 mm	18,810 個
イワガキ	採苗器 1 枚に 10 個以上付着	164,000 枚
アカウニ	平均殻径 20 mm	46,000 個
コンブ	1 枠 50m	4 枠
鳴門ワカメ	1 枠 17m	216 枠

【栽培漁業センター】

4 栽培漁業センター事業（県受託事業）

（1）業務の概要

- ①作り育てる漁業（栽培漁業）を推進するための健苗性の高い放流用種苗及び養殖用種苗を生産し、生産した種苗の出荷・引き渡しを速やかに実施した。
- ②放流用種苗の中間育成技術指導を行い、健苗性、疾病の有無、成長状況についての確認や技術指導を行なった。
- ③種苗生産施設や機器、調査船、公用車の適切な維持管理を行うとともに、島根県の行う水質環境等の調査等に協力した。

【種苗生産計画】

区分	種苗名	規格	計画数量	生産時期
放流用	マダイ	平均全長 35 mm	650 千尾	5～7 月
	ヒラメ	平均全長 35 mm	370 千尾	4～5 月、1～3 月
養殖用	イワガキ	コレクター 1 枚当たり 10 個以上付着	11 万枚	4～12 月

【主な業務日程】

研修・視察・会議名	期間	場所
ヒラメ種苗生産開始	1 月 13 日	栽培漁業センター
イワガキ種苗生産開始	4 月 23 日	栽培漁業センター
ヒラメ種苗出荷	4 月 14 日～4 月 27 日	浜田市・松江市
マダイ種苗生産開始	5 月 4 日	栽培漁業センター
マダイ種苗出荷	7 月 3 日～7 月 14 日	西ノ島町・松江市
マダイ中間育成指導	8 月～9 月	西ノ島町
イワガキ種苗出荷	6 月 29 日～2 月 12 日	松江市・隠岐 4 町村

※今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため職員研修や各種会議への参加を見合わせた。

（2）放流・養殖用種苗の生産に関する業務及び出荷業務

①ヒラメ種苗（受託内容 平均全長：3.5mm 尾数：3.70千尾生産）

目標

ヒラメ無眼側黒化の出現を抑え、大きさの大小差が少ない健苗性の高い種苗の生産を目標として生産を実施した。

結果

令和 2 年 1 月上旬に種苗生産を開始し計画どおり順調に生産を実施した。出荷前検査としてシュードモナス症とクドア症の検査を行い（水産技術センター内水面浅海部に依頼、PCR 法を用い検査）、また無眼側黒化の出現割合の確認を行った。

出荷前検査の結果、シュードモナス症、クドア症ともに陰性であった。

無眼側黒化の確認は約100尾の検体で実施し、正常魚が95.2%及び88.0%と高い率で確認された。無眼側黒化の出現を抑え、健苗性の高い種苗が出荷できたと考えられる。

島根県職員による4回の検査を受けたのち引き渡しを終了した。

【出荷種苗尾数】

出荷先	石見西部部会 (浜田市)	石見西部部会 (浜田市)	石見西部部会 (浜田市)	出雲東部会 (松江市)	合計
出荷月日	4月14日	4月16日	4月21日	4月27日	—
出荷尾数	105,000尾	105,000尾	105,000尾	55,000尾	370,000尾

【シュードモナス・クドア検査結果】

検査日	No.6水槽	200t水槽
3月27日	陰性	陰性

【無眼側黒化の出現割合】

飼育水槽	正常魚	黒化軽度	黒化中度	黒化重度
No.7水槽	95.2%	0.8%	4.0%	0%
No.5水槽	88.0%	12.0%	0%	0%

②マダイ種苗(受託内容 平均全長: 35mm 尾数: 650千尾生産)

目標

奇形魚の出現を抑え、大きさの大小差が少ない健苗性の高い種苗の生産を目標とし、平成28、29年度に発生した大量斃死等の事例が発生しないよう留意し生産を行った。

結果

令和2年5月上旬より生産を開始し、計画どおり順調に生産を実施した。生産初期の稚魚の大量斃死の防止対策や鰾形成期の奇形防止対策を講じた結果、今年度の生産でも大量斃死等は発生せず、特に奇形等が見られる個体も確認できなかった。健苗性の高い種苗が出来たと考えられる。

島根県職員による6回の検査を受けた後引き渡しを終了した。

【出荷種苗尾数】

出荷先	隠岐島前部会	出雲東部部会	合計
出荷月日	7月3日~14日	7月5日、7日	—
出荷尾数	550,000尾	100,000尾	650,000尾

③イワガキ種苗（受託内容 コレクター1枚当たり種苗10個以上付着
コレクター枚数110千枚生産）

目標

イワガキ種苗の要望数は近年増加傾向にあり、要望に応えるため浮遊幼生期の歩留まりの向上などにより安定的な生産を図ることを目標として生産を行った。

結果

近年、生産者からイワガキ種苗の早期出荷の要望が多いことから、母貝の加温飼育により4月23日から早期種苗生産を実施した。

昨年まで、種苗生産の不調が続いていたが、問題点を抽出し対策を講じた結果、今年度の1回次、2回次の種苗生産では計画どおりに生産を実施し、3回次では8月に取水温度が28度に達する異常な高水温などの影響で生産枚数が計画を下回ったが、4回次及び5回次生産では計画どおり種苗生産を行った。

今年度は、11万枚の生産計画に対し、会員の養殖事業者から要望があった約16.1万枚を生産し、2月下旬までに出荷を終了した。

【イワガキ生産状況】

生産回次	生産枚数
1回次（4月23日生産開始）	55,300枚
2回次（7月3日生産開始）	32,000枚
3回次（8月18日生産開始）	9,000枚
4回次（10月6日生産開始）	56,215枚
5回次（11月25日生産開始）	8,875枚
合計	161,390枚

(3) 施設等の維持管理に関する業務

施設の機能を維持し、種苗生産業務に支障を及ぼさないよう、建物・設備及び外構等の性能及び状態が常時適切な状態になるよう維持管理を行ったが、ボイラーや紫外線殺菌機などの機械設備で老朽化による故障が多発しており、その都度修繕を実施した。今後も主要機器の故障が予測される状況にあり、県に計画的な修繕工事の実施を要請している。

【施設の維持管理状況】

項目	内容
種苗生産施設（上屋・水槽等）の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の定期点検、清掃等施設の日常管理を実施した。 ・県水産課に施設の老朽化等の状況報告を実施した。
機器の保守点検と修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・故障機器の修繕工事を実施し、機器の維持管理を実施した。 ・法令による資格者や専門技術者を必要とする電気工作物、ボイラー等については、専門業者に委託して保守点検を実施した。
調査船、公用車の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・日常点検、法定検査や部品交換等を実施した。

5 種苗生産・中間育成に係る課題等

(1) 種苗生産について

種別	項目	問題点と対策	今後の対応
マダイ	仔稚魚の大量斃死の防止	<ul style="list-style-type: none"> 平成 28、29 年度の生産において生産初期の仔稚魚の大量斃死が発生。 平成 30 年から、飼育水の水質悪化防止とワムシからの細菌症の感染防除を考慮した生産方法を実施し、大量斃死を防止。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実証する。
ヒラメ	無眼側黒化の低減	<ul style="list-style-type: none"> 無眼側黒化魚の発生は、ヒラメ種苗生産の大きな課題。 平成 26 年度から施設の照度管理などを実施しセンター出荷時の黒化魚の出現率が 10%を下回るまで改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実証する。
イワガキ	種苗生産の安定化	<ul style="list-style-type: none"> 近年、種苗生産の不調が連続して発生。 令和 2 年度の生産において飼育水の水質悪化と対流不足、餌料の品質確保と安定供給、幼生の密度管理などの問題点を改善し生産が安定化。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して実証する。

(2) 中間育成について

項目	問題点	対策
中間育成のあり方	マダイ・ヒラメの中間育成施設の老朽化や中間育成者の高齢化	<ul style="list-style-type: none"> 中間育成の効率化などを図るため、分散していた中間育成施設の統合を進めてきた。 今後も老朽化した中間育成施設の更新や中間育成実施者の後継者の選任、育成を早急に行う必要があり、より一層の検討が必要である。